

# 令和5年第3回山元町議会定例会 一般質問通告一覧

令和5年9月5日（火）・6日（水）午前10時 開会

質問日	No.	通告者	件名	答弁者
9月5日 (火)	1	伊藤 貞悦	1 次世代に町づくりを繋ぎ「住みたい町、山元町」の実現のための施策について 2 少子化、結婚、人口減少対策について 3 子育て世代への支援について	町長 教育長
	2	高橋真理子	1 過疎地域持続的発展計画について 2 若者の地元定着施策について 3 町の活性化について	町長
	3	大和 晴美	1 人と猫との共生について	町長
	4	渡邊千恵美	1 子育て支援施策について	町長
9月6日 (水)	5	菊地 康彦	1 継続可能な農業の未来づくりについて 2 障がい者福祉の課題と対策について	町長
	6	岩佐 孝子	1 持続可能なまちづくりについて 2 「協働」により、誰もが安全安心して住めるまちづくりについて	町長 教育長
	7	遠藤 龍之	1 学校給食の取り組みについて 2 保育事業の取り組みについて 3 町営（公営）住宅事業の取り組みについて	町長 教育長

(7人 15件)

通告番号	1	1番 伊藤 貞悦 議員
------	---	-------------

質 問 内 容	答 弁 者
<p>1 次世代に町づくりを繋ぎ「住みたい町、山元町」実現のための政策について</p> <p>(1) 未来のビジョンや構想は考えているのか。</p> <p>(2) 若者の就労や働く場所についてどのように分析されているのか。</p> <p>(3) 県内最高水準の移住・定住対策についての評価や分析はどのようになされているのか。</p> <p>(4) 移住・定住対策について今後の新たな計画や具体的な構想は考えているのか。</p> <p>(5) 未来・将来に関する専門の「町づくり構想企画室」を設置する考えはないか。</p>	町 長
<p>2 少子化、結婚、人口減少対策について</p> <p>(1) 本町の婚姻数についてどのように考え分析されているのか。</p> <p>(2) 出会いの場の創出等について、具体的な構想はないか。</p> <p>(3) 町職員に「孫休暇」制度を導入する考えはないか。</p>	町 長
<p>3 子育て世代への支援について</p> <p>(1) 国の「だれでも保育」政策に対する、保育政策の拡充をどのように考え、今後どのようにする考えなのか。(施設の拡充・保育基準・保育士の確保等)</p> <p>(2) 給食費・副食費等を早急に第1子から全額支給する考えはないか。</p> <p>(3) 子育て夫婦への住宅の設置・整備、家賃の支援策を講ずる考えはないか。</p> <p>(4) 放課後児童クラブの拡充を図る考えはないか。</p> <p>(5) 高校生の通学費を支援する考えはないか。</p> <p>(6) 小・中学生の通学用カバンを町指定とするなど支援できないか。</p>	町 長 教育長

通告番号	2	6番	高橋 眞理子 議員
------	---	----	-----------

質 問 内 容	答 弁 者
<p>1 過疎地域持続的発展計画について</p> <p>現在、全国の約半分の885の市町村が過疎地域に指定されている。本町が「過疎地域」に指定されて6年が経過した。令和7年度までの「過疎地域持続的発展計画」が示されているが、今後の取り組みに向けて以下のことについて伺う。</p> <p>(1) 移住・定住希望者が「お試し移住」できる施設を多くの自治体で整備しているが、本町も取り組む考えはないか。</p> <p>(2) 移住・定住促進を目的として、国の補助金で町が空き家を整備し、希望者に賃貸する「中間管理住宅」制度を取り入れ、多くの実績を上げている自治体がある。本町も取り組む考えはないか。</p>	町 長
<p>2 若者の地元定着施策について</p> <p>(1) 若者の流出による人口の減少傾向は続く予想されるが、若者の地元定着施策について、現在、どのように取り組んで、今後、具体的施策をどう講じていく考えであるか。</p> <p>(2) 若者たちの町に対する課題や夢等を「対話する機会の場」として、町長とのタウンミーティングを定期的に関開く考えはないか。</p> <p>(3) 新たな過疎対策には、従来とは違う新しい仕組みづくりを進める必要があると言われ、その中でも、次世代を担う若者たちの「人材育成」は重要である。 今後、若者たちの「人材育成」について、具体的施策をどう講じていく考えであるか。</p>	町 長
<p>3 町の活性化について</p> <p>(1) 外部からの多様な人材は、今や町の活性化には欠かせない。 「地域おこし協力隊」の他にも専門分野の「都道府県過疎地域等政策支援員」、「人材派遣型企業版ふるさと納税」等、国の制度を活用し、複数の民間人材を取り入れる考えはないか。</p> <p>(2) 住みよい町づくりに「デザイン思考」と呼ばれる考え方を取り入れようと専門の企業と連携協定を結んだ町がある。この取り組みは県内では初めてで、町民の心地良い暮らしの実現と町のイメージ向上で魅力を高め、人を引きつける町づくりを推進しようというものだが、本町も取り入れる考えはないか。</p>	町 長

通告番号	3	4番 大和 晴美 議員
------	---	-------------

質 問 内 容	答 弁 者
<p>1 人と猫との共生について 令和4年3月の会議で「TNR活動の啓発と周知について」を質問した。</p> <p>(1) 前回の答弁で「猫の所有者が責任を持って最後まで飼養することが野良猫を増やさない一番の方法であると考えておりますことから、関係機関と連携を図りながら、飼い方指導の実施及び周知に努める」とあったが、その後の対応は。</p> <p>(2) 前回の答弁で「県獣医師会が実施する助成制度の周知に努める」とあったが、その後の対応は。</p> <p>(3) 個人や団体で猫の保護、不妊・去勢手術している方をどう考えているか。</p> <p>(4) 町独自の猫不妊・去勢手術の費用助成をする考えはないか。</p> <p>(5) 町としてどのように人と猫との共生についての環境整備を進める考えであるか。</p>	<p>町 長</p>

通告番号	4	5番 渡邊 千恵美 議員
------	---	--------------

質 問 内 容	答 弁 者
<p>1 子育て支援施策について</p> <p>我が町は「子育てするなら山元町」と、モットーが掲げられています。これまでも多様な保育ニーズに応じた施策を提案し、実現されています。</p> <p>今、ここでもう一度振り返り、事業がスムーズに展開及びその時々に応じて転換されて実施されているのか伺います。</p> <p>(1) 現在の保育体制（各保育事業や人員等）はスムーズに運営されているのか。</p> <p>(2) 保育所と幼稚園の違いを周知されているのか。</p> <p>(3) 保育所が満員だと、今までは幼稚園を紹介されていたが、今後もその対応を継続していくのか。</p> <p>(4) 幼稚園での預かり保育や、土曜日保育の負担軽減に取り組む考えはないか。</p> <p>(5) ファミリーサポートセンタークーポン配布事業の拡充を図る考えはないか。</p>	<p>町 長</p>

通告番号	5	11番 菊地 康彦 議員
------	---	--------------

質 問 内 容	答 弁 者
<p>1 継続可能な農業の未来づくりについて</p> <p>我が町の農業は、自然災害や新型コロナウイルス感染の影響。ロシア・ウクライナ紛争による燃料・資材の高騰、さらには円安の影響。そして、「ALPS処理水海洋放出」による風評被害の懸念により、大きな危機に瀕している。</p> <p>また、高齢化や人口減少による農業者の減少、耕作放棄地の拡大により農地の適切な利用が懸念され、農地集約化が期待される「人・農地プラン」の役割が非常に重要と思われる。さらには、中山間地等の農地維持には小中規模農家の役割が重要と思われる。</p> <p>いかに我が町の農業が継続できるか、以下に質問を行う。</p> <p>(1) 「人・農地プラン」の進捗状況と、課題について</p> <p>(2) 担い手の「人・農地プラン」への反応、農地集積の進捗について</p> <p>(3) 担い手以外の農業者を含めた地域農業のあり方について</p> <p>(4) 新規就農者の位置付けについて</p> <p>(5) 新たな協議が必要とされる「地域計画」の策定状況について</p> <p>(6) 「人・農地プラン」に該当しない小中規模農家が、今後も経営継続できる施策について</p>	町 長
<p>2 障がい者福祉の課題と対策について</p> <p>障害者総合支援法の施行により、障がい者は行政等の支援サービスを受けながら、自らの力で生きて行かなければならなくなった。障がい者一人一人が将来を生き抜く収入を得て、どの様に生活をしなければならないか。そのため、町は課題をどう捉え、どの様な施策が必要と考えるか、以下に質問を行う。</p> <p>(1) 障がい者の就労機会、工賃の向上について</p> <p>(2) 町産業の担い手、労働力としての期待度について</p> <p>(3) グループホーム、ショートステイ等の場の提供について</p> <p>(4) 医療費助成対象者の拡大について</p>	町 長

通告番号	6	9番 岩佐 孝子 議員
------	---	-------------

質 問 内 容	答 弁 者
<p>1 持続可能なまちづくりについて 東日本大震災による甚大な被害により多くの方々が被災し、我が町から転出してしまい、少子高齢化が急激な勢いで襲来し、平成29年に過疎に指定されてから7年目になります。 誰一人取り残さず、持続可能なまちづくりのため震災復興計画、第6次総合計画、過疎地域持続的発展計画等の進捗状況、各種事業における点検・評価、課題を含め、今後のまちづくりへどのようにいかしていくのかについて伺います。</p> <p>(1) 持続可能なまちづくりのためには、地域住民の各世代からの声を聞くことが重要である。地域住民の各世代からの声は各種計画にいかされてきているのか。</p> <p>(2) 町内各種団体をはじめ、「伊達ルネッサンス塾」や「未来への種まき会議」等では、地域課題解決を図る活動等に取り組んできた。各世代におけるリーダー養成について、行政ではどのように取り組んできたのか。今後の取り組み方についても伺います。</p> <p>(3) 誰一人取り残さない町づくりには、「子育てしやすい環境整備」であると思う。 田舎ならではの保育所、幼稚園、小中学生が伸び伸びと体験し学べる環境整備についての考え方について伺います。</p>	町 長 教育長
<p>2 「協働」により、誰もが安全安心して住めるまちづくりについて 震災から10年以上経過した現在も、我が町に足を運び支援しているボランティアの方々がたくさんおられます。町民が生き生きと安全に安心して暮らせるまちづくりをしていくため、下記の点について町長の考えを伺います。</p> <p>(1) 東日本大震災直後から支援くださっているボランティア団体の方々と町民との交流事業についてどのように捉え、評価し、協働の継続、及び新たな協働の考えはないか。</p> <p>(2) 災害時における大学や学生ボランティア団体との協力協定を締結する考えはないか。</p> <p>(3) 交流から関係人口、そして、地域おこし協力隊の確保へつなげていく考えはないか。</p>	町 長

通告番号	7	8番 遠藤 龍之 議員
------	---	-------------

質 問 内 容	答 弁 者
<p>1 学校給食の取り組みについて</p> <p>(1) 食材の「地産地消」の現状と拡充等今後の取り組みがあれば。</p> <p>(2) 町の「地産地消」の取り組みとの連携は。</p> <p>(3) 「食育」の取り組みの現状は。</p> <p>(4) 山元町学校給食搬送業務の今後の取り組みに問題は。</p> <p>(5) 公会計での取り組みの現状は。</p> <p>(6) 給食費の「完全無償化」実施の予定は。</p>	町 長 教育長
<p>2 保育事業の取り組みについて</p> <p>(1) 保育事業の取り組みの現状と課題は。</p> <p>(2) 待機児童の対策は。</p> <p>(3) 保育士の現体制は十分か。</p> <p>(4) 保育所建設の取り組みの現状と実施予定は。</p>	町 長
<p>3 町営（公営）住宅事業の取り組みについて</p> <p>(1) 「山元町町営住宅長寿命化計画」の取り組みの現状は。</p> <p>(2) 「山元町町営住宅条例の一部を改正する条例」の改正内容を具体的な事例をもって確認されたのか。</p> <p>(3) 「公営住宅」入居者の現状と対応は。</p> <p>(4) 新規入居者の現状と対応は。</p>	町 長